

航空自衛隊次期主力戦闘機F104Jの生産価格に関する質問主意書

右の質問主意書を国会法第七十四条によつて提出する。

昭和三十五年三月四日

矢嶋 三義

参議院議長 松野 鶴平殿

航空自衛隊次期主力戦闘機F104Jの生産価格に関する質問主意書

政府は、昨年十一月六日の国防会議において航空自衛隊次期主力戦闘機として、ロッキードF104Jを採用し、昭和三十五年度から昭和四十年年度までに国産することを決定したが、同機の実産価格については、従来幾多の疑点がいだかれていた。よつて左記の点について質問する。

一、防衛庁は、昭和三十三年八月ロッキード社の提案したF104Cの一機当り七十九万ドルの価格表の資料を基礎として、F・C・Sを全天候のエアロ13に改め、合理的な国産化諸条件を考慮に入れて算出した同機の生産価格を昨年六月十五日の国防会議に提出している。その価格は、単価百七万四千ドルとなつてゐるが、本単価の積算の基礎につき明細書をそえて、詳細に説明されたい。

二、政府は、去る一月、F104Jの一機当りの国産単価を百十二万ドル（予備部品購入費二〇%を含まず。）と決定したが、本単価は、前記同様、合理的な国産化諸条件を考慮に入れて算出されたものであるか、また本単価の積算の基礎につき明細書をそえて、詳細に説明されたい。